

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

第3回目 10月11日

9:50～10:10

康保会乳児保育所

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

音

〈テーマの設定理由〉

- ・音にどんな反応を見せるか
- ・楽器や身近にある物の音を聞かせて反応を見る

2. 活動スケジュール

- ・令和6年10月11日 9:50～ 0歳児:8名
- ・音のテンポ、高低差によって反応に違いがあるかを見る
- ・音のテンポを変えると楽器の鳴らし方に違いがあるかを見る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・こりす組 ベッドルームにてスペースをつくる
- ・床にジョイントマットを敷く
- ・用意したもの…太鼓・スティック棒・トライアングル・鈴・マラカス

4. 探求活動の実践

〈活動の内容〉

- ・子ども達が聴きなじみのある曲(「手をたたきましょう」「バスに乗って」)を流し、テンポを速めたりゆっくりにしたりする
- ・曲を流した状態で楽器を出して、音のテンポを変えながら反応を見る

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者とのかかわり〉

保育者が曲を流す…体を揺らしたり手を叩いたりしてリズムに乗っていた。

曲のテンポを速める…テンポが変わると一度動きを止めていたが、テンポに合わせて手拍子をしたり体を揺らしていた。

曲のテンポをゆっくりにする…泣いている子どもが泣き止んだ。

楽器に触れる…楽器が出てくると手を伸ばして音を鳴らし、スティックを持つと太鼓を叩いていた。楽器に夢中になり流れている曲は耳に入らない様子で、テンポによって楽器を鳴らすリズムを変えることはなかった。

〈活動中の様子〉



5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育士の気づき〉

- ・テンポをゆっくりにするとキーが低くなるためか、泣いている子どもや機嫌の悪い子どもは曲のテンポが遅くなると泣き止み、落ち着いた様子でリズムに乗っていた。それ以外の子どもは聴きなれている普通のテンポの曲が一番反応が良かったが、遅いテンポより速いテンポの方が反応が良かった。
- ・途中で曲のテンポが変わるとすぐに気づいていた。
- ・曲が流れても反応が薄く音に興味を示さない子どもも楽器には興味を示していた。他の子ども達も楽器が出てくると夢中になり流れている曲はほとんど聴いていない様子だった。
- ・次回は11月6日バイオリンコンサートなのでコンサートまでに「ジャンボリーミッキー」等演奏曲に親しみ、新たな楽器を買い足す予定である。
- ・次回以降は手作り楽器ではじめての楽器にどう反応するか、動物の鳴き声や自然の音(水・風)にどう反応するかを見ていく。